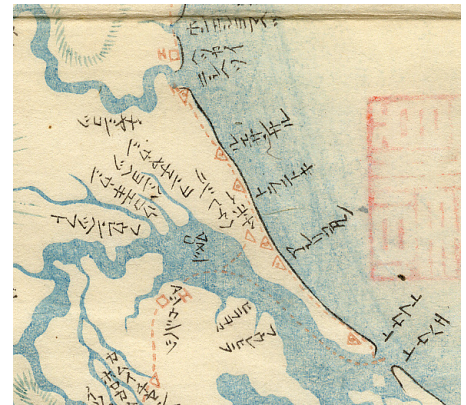


ふるさと講座歴史系

「近世アイヌ語地名を巡る」のお知らせ

北海道で現在使われている地名のほとんどが、アイヌ語由来の日本語地名となっています。この度、近世文献史料に残されたアイヌ語地名の内、風蓮湖（遠太）～本別海を巡りたいと思います。

- 日 時 平成22年10月24日（日）
午前9時～12時
- 定員は10名とします。電話・FAX・メールのいずれかで、10月23日（土）までにお名前、電話番号をお知らせ下さい。



収蔵資料を移設中です。

常設展示以外の資料は、郷土資料館内収蔵室、屋外D型ハウスに収蔵していましたが、この度、旧豊原小学校を当館の収蔵施設として利用することになりました。

資料の移設と同時にクリーニングや写真撮影、台帳照合などの作業もあわせて行っています。町民の皆様より寄贈いただいた別海町の開拓を物語る数々の資料を、より良い環境で保存出来るよう努力したいと考えています。



クリーニング終了の資料



棚を設置して資料を保管します。

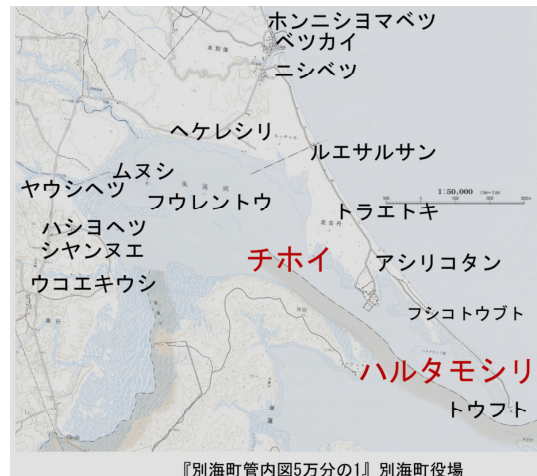
近世の別海を探る 「西別川河口から南、風連湖内」～その7～

チホイ

文献資料の標記は、「チホエ」「チボエ」「チホイ」「チボイ」「ツホイ」「ツボエ」「ツホ井」があります。

○地名の由来

- ・〔チホイ〕「船に乗て行（と云儀）」
『午手控』松浦武四郎 安政5年(1858)
- ・〔チボイ〕「チブ ホトエ 船 呼」
『丙寅慶応二年正月吉日 万覚帳 安政六未年 子モロ地名和解書』加賀伝蔵 安政6年(1859)



○地勢・建物など

- ・「チホエ等聞まゝニ是はしるし置もの也。尚此北方斗は余も見ざれば其夷人よりロうつしのまゝ也。今因ニ此れ湖中の里数をしるす干。」『初航蝦夷日誌』松浦武四郎 弘化2年(1845)
- ・「フウレンより凡三里八丁程 此所はアツウシベツへの渡海場にて、向岸迄凡八丁程有レ之、御休所有。ニシベツより通路之陸道御座居候。
『古人の邑嚙 嘉永七甲寅年閏七月〔子モロ場所〕』加賀伝蔵 嘉永7年(1854)
- ・「チホイ（従アツウシベツ直渡に渡し十丁）小休所。此處細き沙地にして五六丁海岸出る。其名義、舟に乗て行と云儀。従是楸木立（凡一里半）若し二葉松ならば住の江にもおさおさおとるまじと思ふ。」『東西蝦夷山川地理取調紀行 東蝦夷日誌』松浦武四郎 安政3年(1856)
- ・「ニシベツ…今はベツカイへ移住したりける。又此処より通行人数は陸路（一里半）にしてフウレン湖の辺字チホエ小休所（十坪、此所アツウシベツより対す。凡舟路一五六丁也）え出る也。」
『竹四郎廻浦日記』松浦武四郎 安政3年(1856)

ハルタモシリ

文献史料での標記は、「ハルタモシリ」「ハルタモシリ島」があります。

○地名の由来

- ☆〔ハルタモシリ〕
・「フウレン入江の中に有る島なり 黒百合取島」
『丙寅慶応二年正月吉日 万覚帳 安政六未年 子モロ地名和解書』加賀伝蔵 安政6年(1859)



別海町郷土資料館だより No.135

発行日 平成22年10月1日

発行所 別海町郷土資料館
別海町別海宮舞町30番地

電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

e-mail kyoudo@betsukai.jp

編集後記

たよりにもあるように現在、資料移設作業を実施しています。現在使用しているD型ハウスは以前より保存環境が良くないと考えていました。良い環境を作ってあげることは、町の歴史遺産を残すためにも大切なことで、資料からにじみ出る先人たちの苦労をいつまでも大切にしたいと思います。(K.I)